— vol.10 —
2020年5月27日発行

グループホームさざなみ京都南
グループホームケアマネージャー

# 藤岡（ふじおか） 多津子（たつこ）

さざなみ

**藤岡多津子は、2018年に有限会社さざなみへ入社。10年以上にわたり介護職に携わり、2015年にはケアマネージャーの資格を取得する。「人の人生の最後に関われることは、この仕事の大きな魅力です」と語る藤岡に、仕事への思いや心に残るエピソードを聞いた。**

## 入居者それぞれに合うケアプランを

グループホームさざなみ京都南は、1階が小規模多機能型居宅介護という施設で、2階から4階までがそれぞれグループホームになっている。1フロアの入居者数は9名で、藤岡は4階の利用者のケアプラン作成を担当し、日々のサービスや支援内容などを決める。

介護保険での支援は自立支援が基本だ。介護が必要な部分を支援者がカバーし、一人でできることは過剰に支援せず、自立を促すことを目的にプランを作成する。好きなことや趣味などがあれば、それを活かせるようにと配慮する。

そして、忘れてはならないことは、実際に介護に携わるスタッフが無理なく仕事ができるようにすることだ。

「どんなに良いプランであろうと、スタッフに過度な負担がかかってしまうようでは意味がありません。利用者だけではなく、スタッフの立場も考慮しケアプランを組み立てていますね」。

## 介護が必要な人やその家族の生活を支える存在に

5年ほど介護職を離れていた時期を経て、「やはり介護に携わりたい」という気持ちが強まり、再び介護の現場に戻ってきた藤岡。しかし、腰を悪くしていたため、実際の介護に完全復帰するのは難しく、復帰後は事務職として介護の仕事に携わるように。

そうして、様々な現場でケアマネージャーとも関わるようになったことで、徐々に介護が必要な人の生活全体を支えてあげたいという思いが大きくなっていく。これが、ケアマネージャーの資格取得を目指すきっかけとなった。

人生の最後を自宅で迎えることは昔ほど多くはない。一方で、最後まで自宅で介護を希望する家族もある。そんな家族を支え、「自宅で看取ることができてよかった」と思ってもらえることが、介護に従事する者として嬉しく思っている。

また、施設でスタッフが看取る場合も、その人の生活に大きく関わってきたゆえに、まるで本当の家族のように感じている。

「最後まで、利用者様の希望に沿ったケアに従事してご家族を支え見届けることが、介護という仕事の大きなやりがいだと感じています」。

## バースデーソングを一緒に歌った思い出

思い出深い出来事の一つに、ある在宅サービスの利用者との最後の別れがある。

「あと2年で100歳というご年齢で。事務所からもほど近い場所に自宅があったこともあり、いよいよかもしれないという頃、毎日のように立ち寄っていましたね」。

その日はちょうどその方の誕生日。ベッドの横でバースデーソングを歌い、家族も一緒にお祝いをした。バースデーソングの歌声もおそらく届いていたのではないか、と思えるほど、とても穏やかで嬉しそうな顔つきをしていたのをよく覚えている。

残念ながら、その日の夜、お亡くなりになったのだが、誕生日を一緒に祝ってくれたことに対して、家族からとても感謝されたという。介護で大変な思いをしている家族の力になれたのは、自身にとって大きな励みとなった一件であった。

## 介護は尊い仕事

人と関わるのが好きだという藤岡。介護サービスの利用者は、これまでの人生で積み重ねてきた経験や知識を豊富に持つ年配者たちだ。たとえ要介護であっても、尊敬できる人生の先輩なのである。そんな人々の人生の最後に関われることが、この仕事の魅力であると日々の生活から感じている。

「介護職は大変なイメージが強いかもしれませんが、私はこの仕事が大好きです」。

これからも仕事への熱意は変わることなく、藤岡は歩み続けていくだろう。

# 今月のキラビト

さざなみシニアサポート
**大上（おおうえ） 浩史（ひろし）さん**

このコーナーでは、キラリと光る活躍をされている「キラビト」をご紹介します！ 今回は、「さざなみのコンシェルジュ」的存在である大上さんにお話を伺いました。

## 仕事内容

医療・介護に関わる連携支援の業務を行っています。
具体的には、様々な理由で入居先あるいは入院先を探すのが難しい方々の相談を、ケアプランセンターや病院、ホームを運営している地域の事業所を介して受けています。
介護を受けていらっしゃる方、病気を患っていらっしゃる方にとって、最適な身の置き場をコーディネートする役割と言えるのではないでしょうか。

## 難しいところ

ご相談いただいた方のご意向に沿うことが難しい場合、その旨をご納得いただくことです。
例えば、ご家族は病院に行かせたくないと思っていても、症状によってはそもそもホーム側に受け入れてもらうことができません。しかし、病院に行くと動く機会が減り、症状が進行してしまうと考えている方も多く、まず病院を経てからホーム探しをするという前提を理解していただけないのです。
相手によってストレートに説明すべきか否か、伝え方を見極めるのも難しいところです。

## やりがい

自分との相談を経て入居先が決まった方に、後日さざなみの系列施設でお会いすることもあります。
そのときに、以前より元気なお姿を見られたときや、面と向かって「ここに来て良かった」と言っていただけたときに、やりがいを感じます。

## 思い出に残っているエピソード

病院から相談をいただいてグループホームへ移られた入居者の方が、普段はわがままな素振りを見せているのに、私が顔を見せたときだけ従順になってくれたことがありました。認知症を患いながらも、記憶のどこかで「この人にはお世話になった」と感じていただけているのかなと嬉しく思いました。

## 今後の目標

さざなみに身をおいている以上、さざなみグループホームの発展に貢献していきたいと思っています。
具体的には、過去幾度か開催させていただいた研修の充実を図っていくつもりです。元々病院に勤務していたので医療の知識をお話したり、営業で磨いてきた接遇マナーや基礎的な電話対応などをお伝えしたりできればと思います。

# イベント情報

**今回は3事業所のレクリエーションの様子をご紹介します。
次号でも他の事業所の様子を紹介します！お楽しみに！**

### 住宅型有料老人ホームさざなみ 壱番館

3月の終わりに桜を見に、近くの公園まで散歩に出かけました。少しの時間でしたが、久しぶりの外出を楽しむことができました。

### グループホームさざなみ

お正月にみんなで書き初めをおこないました。お手本を見ながら各々が書いた字には、個性が溢れていました。

### グループホームさざなみ 城東

中々外出できない日々が続いていますが、入居者様と一緒に楽しいことができればと、豆もちを一緒に作って食べました。

# 社内報アンケート

今回で10号を発行しました社内報ですが、皆様のご意見を伺いたいと思います！
より充実した紙面になるように、ご協力をお願いします！

**こちらのQRコードからアンケートを読み込んでいただきご回答をお願いします。**